

少し長めの自己紹介

発表者：堀口真寿会員

入会のきっかけは、前橋での子供時代の「お蚕さん」との関わりを同時入会の佐々木勲さんと話したことでした。五歳頃の、隣の家でお蚕さんが桑の葉を食べている音、絹糸を繰るために繭を煮詰める時の強烈な匂い、赤痢になるからドドメを食べてはいけないこと（デマ）、小学生の頃の、厩橋城跡地のお堀での魚釣り、防空壕探検、臨江閣の周りでの遊び、絹に関する札を含んだ上毛かるたで遊んだことなどを。このような環境で育ちながら入会するまで速水堅曹氏、原三溪氏の功績など、知る機会がありませんでした。現在は、皆さまに幾らかでも追いつくこと、そして原三溪氏ゆかりの文化財の修復に必須な技術の伝承と保存を、その技術を核にビジネスになり得る新規分野を創出する中で、人材の確保と技術の確保と洗練化が図れる環境を実現できたらと思っています。今後は会に参加する中で新たな課題を発見し、微力ながら貢献できればと思います。よろしくお願いいたします。



マンガ「原三溪」の運用について



岐阜県からマンガ『原三溪』（岐阜県企画、渡辺浩行構成・作画、マンガで見る日本まん真ん中おもしろ人物史シリーズ 6、2004.3）の寄贈を受け、原三溪市民研究会の蔵書としました。これを地域での啓発活動や、当会主催の各種イベントに役立てるため、まずは会員全員で読むことになりました。

これに先立ち、会員有志でマンガ本1冊ずつに蔵書番号を貼ってコーティングする作業を行いました。利用の際には、その蔵書番号をもとに貸出・返却記録簿を使って管理します。